

129 いわした おど ねんぶつ 岩下の踊り念仏



指 定 市無形民俗文化財 昭和61年 9 月10日
 所在地 春 日
 所有者 岩下踊り念仏保存会



時宗の開祖一遍上人が勧めた跡部の踊り念仏と同系統のものであろう。江戸初期の寛永年間（1624～1644）から村の若衆が雲居山玉泉院の本堂に集まり、二間四方のやぐらを組み、その中央に太鼓と鉦を打つ者がいて、それを中心に皆が丸くなり、春の彼岸の中日を中心に二夜三日を太鼓と鉦のリズムに合わせて踊り続けたのである。

当時は女人禁制で、若衆たちは自分等で団子や精進料理を作り、ふるまったのだという。また、その頃は本郷、向反、新田などから大勢の若衆が助念仏として集まって来た。

現在は中高年が中心で男女を問わず、公民館に集まりやぐらを組んで、太鼓を中心に丸くなり、太鼓と念仏讃本に合わせてまわりながら念仏を唱える。